

### I

#### ■出題のねらい

犬が人間の言語を聞き分けられることを取り上げた記事を題材にした問題です。難しい語はいくつかありますが、興味深い内容で理解はそれほど難しくありません。整序問題が多いことから、語の意味だけでなく使い方も身につけておく必要があります。

#### ■採点講評

全体的に少し難しい問題だったようです。内容を問う [ 6 ] は正答率が高かった一方で、正答率が低かったのは整序問題の [ 4 ] と [ 5 ] でした。どちらも並べ替えの部分だけでなく、前後を見る必要があります。というのも、どちらも前とのつながりを考える必要があるためです。[ 4 ] を解くカギは、allow(ing) の典型的な使い方の「allow+目的語+to V」にあります。目的語と to V の間には主述の関係があり、これをもとに allowing researchers to compare ... と並べることができるでしょう。[ 5 ] については、並べ替える部分の前に The older the dogs were とあることから、the 比較級 ~、the 比較級 ... (~すればするほど...) という構文であることが分かります。the 比較級の後は主語・動詞と続くので、the better their brain distinguished ... と並べることができるでしょう。

### II

#### ■出題のねらい

スポーツクラブの接客係とクラブに関心のある客との会話です。会話は、パルクールというスポーツに関する質問とそれに対する回答で構成されています。内容を整理しながら読むと把握しやすくなるでしょう。

#### ■採点講評

全体的に非常によくできていました。特に [ 8 ] ~ [ 10 ] は正答率が高く、接客係の回答から客がどのような質問をしたのかをよく理解できていたものと思われます。ところが同じタイプの [ 7 ] は難しかったようです。[ 7 ] の質問に対する回答の要点は、One of the our aims ... で始まる文中の特に a major part of this is our provision for children and young adults (その大半は子供や青年に対する配慮です) の部分です。ここから③を選ぶことができます。④と誤答した受験生が多かったのですが、④の equal rights for children が「子供の平等の権利」という意味と分かれば、回答と整合しないことが分かるでしょう。また、やや正答率の低かった問題は [ 11 ] と [ 12 ] でした。前者は repeat (繰り返す) を意味する文中の語を答える問題ですが、repeat を本文に当てはめて考えると答えが見つけやすかったように思いま

す。一方、後者は compare（比較する）を意味する文中の熟語表現を答える問題です。これも [11] と同様に、compare を本文に当てはめて考えれば、たとえ各選択肢の熟語を知らなくても ④ draw a parallel にたどりつけたのではないかと思われます。

### III

#### ■出題のねらい

空所補充形式の文法問題です。新形式の問題ですが、TOEIC の Part 5 と同じ形式でもあります。基本的な文法と語彙の知識が求められます。

#### ■採点講評

全体的に少し難しい問題だったようです。[17] の正答率が高かったのに対し、正答率が低かったのは [13] と [15] でした。前者は空所の直後の knowledge が不可算名詞であり、これを修飾できるのは ② comprehensive（包括的な）だけです。逆に言えば、①③④は可算名詞を修飾する語であり、消去法で解くこともできます。後者は空所の直後の understanding が名詞であることに気づけば、名詞を修飾するのは形容詞であり、②を選ぶことができるはずです。英語の形容詞は名詞を修飾することが基本であることを覚えておきましょう。

### IV

#### ■出題のねらい

アザラシの顔認証技術に関する記事からの出題です。ところどころ難しい語が用いられていますが、文章は論理的で論旨は明快なため、理解はそれほど難しくありません。

#### ■採点講評

比較的易しい問題だったようで、全体的によくできていました。特に、[18] は文法に関する問題ですが、よくできていました。一方、正答率が低かったのは [21] の整序問題でした。この問題の解答において重要なことは、動詞の典型的な使い方を知っているかどうかにあります。動詞 design にはいくつか意味がありますが、「意図する」の意味では通例受動態で用いられます。たいてい be designed to V（Vするよう意図されている）のように使われるということです。したがって、is designed to identify ...のように並べ替えることができます。なお、通例受動態で用いられることは辞書に記載されていることであり、意味と使い方はセットと考えるべきでしょう。[20] の空所補充も正答率は低かったのですが、be involved in ～（～に参加する・関わる）はよく使われる表現です。熟語ではありませんが、頻度の高い基本的な定型表現にも普段から目を向けておきましょう。

# V

## ■出題のねらい

南パタゴニア氷原旅行記を題材とした総合問題です。文章は一人称視点で描かれ、ところどころ難しい語が用いられています。この英文の理解には文脈から読み取る力が求められます。

## ■採点講評

5つの大問のうち最も難しい問題だったようですが、の空所補充はよくできていました。一方、正答率が低かったのはとです。特に前者は難問だったようです。を含む文の直前で、チリの船の操縦士がIf you like the endless ice of Antarctica, you have to go see the ice in my country.（もし南極の果てしない一面の氷を見たければ、私の国の氷原を見に行くといいよ）と述べています。この続きであることを踏まえると、endless iceとglacier（氷河）がほぼ同じ意味であると推測でき、チリの氷河が南極のそれとほぼ同じくらいどのようなものかを理解することができ、③ untouched（手つかずの）を選ぶことができますでしょう。は不必要なものを選ぶ整序問題です。① we visitorsは必ず主語として用いられ、それに対する動詞は③ walkedしかないので、この2つが結びつきます。カッコの後にto the glacier wallとあるので、これがwalkedとつながると考えられます。また、②と⑤を結びつけたwithout difficulty（難なく）という熟語表現もwalkedを修飾すると考えられます。カッコの前のonと⑥ whichで前置詞＋関係代名詞を作ることができます。この結果、(on) which we visitors walked without difficulty (to the glacier wall)のように並べることができ、④ fromが不要となります。並べ替えの問題では前後との整合性を考慮するとよいでしょう。